

令和 4 年度  
事業報告書

〔自 令和 4 年 4 月 1 日  
至 令和 5 年 3 月 31 日〕

公益財団法人 大山健康財団

公益財団法人 大山健康財団  
令和 4 年度 事業報告書

〔 自 令和 4 年 4 月 1 日  
至 令和 5 年 3 月 3 1 日 〕

本財団の令和 4 年度の事業は、令和 4 年度事業計画書に基づき、下記の事業等を行った。

## I. 学術研究助成事業

本財団定款第 4 条第 1 項第 1 号に規定される学術研究助成事業は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症の基礎的あるいは臨床的研究を行っている者及び感染症に関する疫学的研究を行っている個人で、満 50 歳以下の者を対象とする研究助成金で、令和 4 年度（第 49 回）学術研究助成事業は次の日程により実施した。受贈者は下記のとおりである。

なお、贈呈式は、令和 5 年 3 月 14 日（火）に霞が関・霞山会館において開催した。

- ・公募開始：令和 4 年 10 月 1 日 応募要領・申請書 195 通発送  
本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同  
サイト、日本感染症学会、日本寄生虫学会のホームページ  
に応募要項を掲載した。
- ・公募締切：令和 4 年 11 月 30 日 応募件数：58 件  
(応募内訳 細菌学分野 41 件、寄生虫学分野 17 件)
- ・選考委員会：令和 5 年 1 月 24 日
- ・理事会決定：令和 5 年 2 月 16 日

### 【第 49 回学術研究助成金受贈者】（敬称略）

氏 名	所 属・役 職	研 究 課 題	助成額 (円)	選考分野
いはら そうざぶろう 井原 聡三郎	東京大学医学部附属病院 消化器内科 助教	ジアルジア症に対する予防接 種の開発に向けた検討	1 0 0 万	寄生虫学
いわさき たかし 岩崎 崇	鳥取大学農学部 准教授	細胞壁透過ペプチドを利用し たオーダーメイド型細菌叢制 御技術の開発	1 0 0 万	細菌学
うわみの よしふみ 上 養 義典	慶應義塾大学医学部 臨床検査医学 専任講師	カルバペネム耐性緑膿菌の DBO 系 β ラクタマーゼ阻害 剤配合 β ラクタム薬耐性に関 する探索的研究	1 0 0 万	細菌学
かわしま あきら 川島 晃	帝京大学医療技術学部 臨床検査学科 研究員	脂質合成経路を標的としたハ ンセン病の新たな感染症治療 戦略の創出	1 0 0 万	細菌学
きんじょう たけし 金城 武士	琉球大学大学院 医学研究科 助教	ナノポアシーケンスと MLST 法による非結核性抗酸菌の高 精度迅速同定と薬剤感受性予 測システムの開発	1 0 0 万	細菌学
さかもと ひろかず 坂本 寛和	千葉大学大学院 医学研究院 特任助教	マラリア原虫類のオルガネラ 恒常性に果たすオートファジ ー関連因子 ATG8 の機能解析	1 0 0 万	寄生虫学

しもの たかき 下 埜 敬 紀	関西医科大学医学部 衛生・公衆衛生学講座 講師	発展途上国で使用可能な尿を検 体とした活動性結核の新規スク リーニングシステムの開発	100万	細菌学
つくいくみこ 津久井久美子	国立感染症研究所 寄生動物部 主任研究官	腸管寄生性原虫赤痢アマーバ trophocytic tunnelに局在する 分子のインタラクトーム解析	100万	寄生虫学
はねだ たけし 羽田 健	北里大学薬学部 微生物学教室 講師	サルモネラのマクロファージ 細胞死誘導機構の解明と薬剤 耐性菌治療への応用	100万	細菌学
ひよし ひろたか 日吉 大 貴	長崎大学熱帯医学研究所 細菌学分野 准教授	病原体感染細胞と非感染細胞 を区別したトランスクリプト ーム解析ができる scRNA-seq の研究開発	100万	細菌学
			1,000万	

## II. 顕彰事業

本財団の定款第4条第1項第2号及び大山健康財団賞・大山激励賞・竹内勤記念国際賞選考規程第2条に基づき、令和4年度顕彰事業は下記の日程で実施し、審議の結果大山健康財団賞に仲佐保氏、大山激励賞に神白麻衣子氏、竹内勤記念国際賞に吉岡浩太氏をそれぞれ受賞者に決定した。

なお、贈呈式は令和5年3月14日（火）に霞が関・霞山会館において開催した。

各受賞者には、それぞれ下記の賞状等を贈呈した。

- ・大山健康財団賞受賞者：賞状・記念メダル・副賞100万円
- ・大山激励賞受賞者：賞状・副賞50万円
- ・竹内勤記念国際賞受賞者：賞状・副賞30万円

- ・公募開始：令和4年10月1日 推薦依頼43通発送

本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同サイトに推薦依頼を掲載した。

- ・公募締切：令和4年11月30日

※推薦件数：大山健康財団賞：4件、大山激励賞：3件、竹内勤記念国際賞：3件

- ・選考委員会：令和4年12月20日
- ・理事会決定：令和5年2月16日

### 1. 令和4年度（第49回）大山健康財団賞受賞者（敬称略）

○仲佐保<sup>なかさ たもつ</sup>（認定）特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会 共同代表理事  
医師 国際公衆衛生学修士（満68歳）

<功労の内容>

仲佐保氏は、医学部卒業後、国立病院医療センターの外科医としてのカンボジア難民医療援助を皮切りに、国際緊急援助隊の設立に深く関与されるとともに、当時のNGOシェアの一員としてエチオピア飢餓被災民援助では、飢餓の中、感染症に苦しむ被災民の診療を行われた。

1986年には、国立病院医療センターに創設された国際医療協力部の一員として、ボリビア、パキスタン、ホンジュラスとJICA技術協力プロジェクト専門家として長期に派遣され、途上国における地域医療を通じて住民の健康増進に貢献された。その後は、国際医療協力を目指す日

本人の育成やアフリカの感染症対策、アジアの地域保健医療プロジェクトの運営に従事され、2018年には、コンゴ民主共和国の保健省次官顧問として派遣され、エボラ出血熱流行対策に貢献された。同時にNPO シェアの一員として、タイおよびアフリカの HIV/エイズ対策プロジェクトへのアドバイスをされた。以上のように、仲佐医師は官民を問わず、日本の国際医療協力の基礎づくりに貢献され、40年近く現場の実践を基にこの分野をリードする存在である。

## 2. 令和4年度大山激励賞受賞者（敬称略）

- <sup>こうじろ まいこ</sup>神白 麻衣子 特定非営利活動法人ジャパンハート 副理事長  
 ジャパンハートカンボジアこども医療センター 院長  
 医師（総合内科専門医・プライマリケア認定医・厚労省認定臨床研修指導医）  
 （満48歳）

### <功労の内容>

神白麻衣子氏は、医療が届かない場所に医療を届ける事を強く信念として志し、学生時代にも積極的に在日外国人医療相談会や野宿者支援ボランティア活動に参加された。また、国際医療協力を志し、医学部を卒業後、医療人材や設備が十分でない離島・へき地医療やプライマリケア、救急医療を学び、その間も他団体のフィリピンでの短期医療ミッションに数回参加された。その後、日本で勤務されていた病院を退職され、無償のボランティア・スタッフ医師としてジャパンハートの活動に参加された。

2004年に吉岡秀人氏が設立した「国際医療奉仕団ジャパンハート」（当時）は、ミャンマーの「ワッチェ慈善病院」で医療活動を開始し、現在は、日本国内はもとよりカンボジア、ラオスで活動を展開している。

決して十分とは言えない人員と設備の中、様々な苦勞をいとわず14年もの間継続してミャンマー、カンボジア、ラオスで患者の命と真摯に向き合う神白氏の姿は、多くの医師、看護師を含むスタッフ、患者とその家族に勇気を与えている。さらに現地の医療に長年携わってきた経験を生かし、これまでに約20人のカンボジア人医師を育成する中で、神白氏が持つ医療技術に加えて、優れたホスピタリティを伝え、医療従事者の育成にも尽力し続けられている。これからもアジアへの医療貢献が大いに期待される。

## 3. 令和4年度（第5回）竹内勤記念国際賞受賞者（敬称略）

- <sup>よしおか こうた</sup>吉岡 浩太 長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 准教授（博士前期課程専任教員）  
 日本顧みられない熱帯病アライアンス 副事務局長  
 公衆衛生博士（ハーバード公衆衛生大学院）（満48歳）

### <功労の内容>

日本ではなじみのない感染症「シャーガス病」は、中南米特有の病気で、マラリアに次いで危険な熱帯病と言われている。ここ数十年の間に人の移動を通じて広まり、米国、カナダ、ヨーロッパの多くの国々、そして日本でも患者が確認されるなど、世界的な脅威になっている。

吉岡浩太氏は、2007年に中南米グアテマラでシャーガス病対策に関わったのがきっかけで公衆衛生を志された。感染の約8割は、サシガメと呼ばれる吸血性のカメムシが媒介して起こり、感染した直後であれば完治が可能であるが、多くの場合は症状を感じる事がなく、慢性期に入ると効果的な治療法はまだ確立されていない。感染に気が付かないまま10年から20年を経過すると、心臓疾患等で死に至ることもある。JICAは1990年代にグアテマラでシャーガス病の研究プロジェクトを実施したのを皮切りに、中南米諸国で感染対策の技術協力を展開してき

た。シャーガス病は「貧困の病」の異名があるように、媒介するサシガメが、土堀や藁葺といった貧しい人々の住む家屋に生息するからで、ニカラグアでも貧困層の多い北部での発生率が高いことが確認されている。

吉岡氏は、2010年～2014年、ニカラグアに JICA シャーガス病対策プロジェクト専門家として参加され、先ず、ニカラグア保健省の了解のもと、現地調査員を雇用、訓練し、調査チームを編成して、サシガメの生息状況を把握するための現地調査等を実施された。次いで、サシガメの生息が確認された家屋の1軒1軒に殺虫剤を散布し駆除された。しかし、殺虫剤は一時的にサシガメを駆除するには効果的であるが、永続的なものではなく、重要なのは住民がサシガメの脅威を理解し、継続的に監視するシステムを作ることである。そこで、吉岡氏らは、監視システムを提案し、対象の5県49市でシステムを導入するための研修を実施された。この監視システムは、サシガメを発見した住民が最寄りの保健所に届け出て、その後、保健所のスタッフがその家を訪問し、啓発・殺虫剤散布などの対応を行うというサイクルの確立を目指すものである。

サシガメは、土堀や日干しレンガの壁の中、とりわけ壁のひび割れに入り込むことから、プロジェクトでは壁の修繕にも取り組み、こうした作業も住民自身のイニシアチブを高めるように指導している。ひび割れの修繕により、サシガメは住む場所を失い、住民の感染リスクは大きく下がっていった。吉岡氏は、こうした研究成果を多くの欧米専門誌に発表されている。

### Ⅲ. 学術集会支援事業

本財団定款第4条第1項第3号に基づき、令和4年4月1日から4月30日の期間で本財団のホームページに募集要項を掲載し募集を行なった結果、2件の応募があり、令和4年5月24日開催の学術集会支援審査委員会及び同日開催の理事会において、下記の学術集会に助成することを決定した。なお、各学術集会より下記の通り実施報告があった。

1. 「第63回日本熱帯医学会大会・第26回日本渡航医学会学術集会（合同大会）」に50万円助成した。

- ・申請者：西園 晃（大分大学医学部微生物学講座 教授）
- ・主催者：日本熱帯医学会・日本渡航医学会
- ・開催責任者：西園 晃（大分大学医学部微生物学講座 教授）
- ・開催期間：2022年10月8日(土)～9日(日)
- ・開催場所：別府国際コンベンションセンター
- ・参加者数：539名
- ・申請金額：50万円（総予算額：1,311万円）

#### 【開催概要報告】

※「第63回日本熱帯医学会大会・第26回日本渡航医学会学術集会」のプログラム・抄録集が提出された。

#### 【テーマ】 Suffering, Creativity and Innovation: Pathways to Global Health in COVID-19 Era and Beyond

(1) 大会長挨拶（大分大学医学部微生物学講座 教授）

今回は、日本熱帯医学会大会および日本渡航医学会学術集会の合同開催として、両学会共に3年ぶりに現地での開催といたしました。幅広い専門家・研究者・医療従事者・学生が垣根を超えて直接議論できることの利点や、次世代の医療従事者・研究者の交流の場を広げたいという強い思いから、COVID-19に対する感染対策を徹底した上で現地開催を前提とし

て準備して参りましたが、予想を超えた第7波のインパクトから全面的な現地での対面開催には再考すべき状況になりました。基本的には現地での対面開催をメインとする方向を堅持しつつ、前々大会の「グローバルヘルス合同大会 2020」、前回の「第25回日本渡航医学会学術集会」および「第62回日本熱帯医学会大会」がオンラインで成功裏に開催された経験を活かし、ハイブリッド開催方式に変更いたしました。本大会のテーマには“**Suffering, Creativity and Innovation: Pathways to Global Health in COVID-19 Era and Beyond**”を掲げております。2020年の初頭には、SARS-CoV-2は未知のウイルスとして出現し、その後世界中でパンデミックを引き起こし現在に至っております。我が国でもこれまでに何度も流行の波を経験し、海外での研究、交流活動、渡航が縮小に追い込まれました。一方で、この経験は感染症全般に対する診断・治療・予防方法や各セクターとの連携において新たな革新をもたらしたのも事実です。本大会ではこれらの知見を皆様と共有し、COVID-19のみならず、熱帯医学及び渡航医学領域で今後我々がどのように医学・医療を発展させていくべきか、立場や専門性を超えて議論するなかで斬新なアイデアが生まれ、将来につながる気づきが得られることを期待しております。

(2) 学術プログラム内訳

(i) シンポジウム：55 演題

(ii) ワークショップ：8 演題「第15回症例から学ぶ熱帯感染症」、「ハンセン病の社会的課題とその解決に向けて～インドの事例から～」

(iii) 市民公開講座：3 演題「九州の外国人医療」

(iv) ランチョンセミナー：4 演題

(v) 一般演題（口頭）：45 演題

(vi) 一般演題（ポスターセッション）：78 演題

(3) 製作物

・抄録集：500 冊 ・ポスター：3,200 枚 ・大会ホームページ：一式

(4) 総支出額：1,420 万円（助成金申請時の総予算額：1,311 万円）

2. 「第92回日本寄生虫学会大会」に50万円助成した。

- ・申請者：吉田栄人（金沢大学医薬保健研究域薬学系ワクチン・免疫科学研究室 教授）
- ・主催者：日本寄生虫学会
- ・開催責任者：吉田栄人（金沢大学医薬保健研究域薬学系ワクチン・免疫科学研究室 教授）
- ・開催期間：2023年3月30日(木)～31日(金)
- ・開催場所：金沢歌劇座
- ・参加者数：349名
- ・申請金額：50万円（総予算額：450万円）

【開催概要報告】

※第92回寄生虫学会大会のプログラム抄録集が提出された。

<学術プログラム>

(1) 招請講演：演者（Prof. Faith Osier:Imperial College London,UK）  
演題：Fc-dependent IgG parasite clearance as a guide for vaccine development against *P.falciparum* malaria

(2) 特別企画：「ジャパン発 抗寄生虫新薬の前臨床～臨床試験ステージ」

第一部 GHIT Fund の使命・間もなく臨床応用へ

講演者：◇国井 修 博士（GHIT Fund CEO）

「グローバルヘルス R&D における日本のイノベーション」

◇堂本郁也 氏 (アステラス製薬株式会社・サステナビリティ部)

「小児用プラジカンテル・コンソーシアム：就学前児童のための新たな住血吸虫症治療薬開発の旅路」

◇濱野真二郎 氏 (長崎大学熱帯医学研究所・寄生虫分野 教授)

「臨床試験を見据えたリーシュマニア弱毒生ワクチンの研究開発」

第二部 ポスト RTS,S マラリアワクチンの開発

◇Dr.Ashley Birkett (PATH Malaria Vaccine Initiative,USA)

「Malaria Vaccine Development and Introduction :Recent Advances and Future Directions」

◇Dr.Andrew M.Blagborough (University of Cambridge)

「Next-Generation Malaria Vaccine Effective both for Protection and Transmission-Blockade -NON-Human Primates Model-」

(3) シンポジウム

寄生虫の分子疫学 - Molecular epidemiology of parasite -

講演者：◇吉川尚男 博士 (奈良女子大学・理学部・化学生物環境学科)

「インドネシア・スンバ島の疫学調査で見られたブラストシスチス属の多様性と宿主特異性について」

◇松林 誠 博士 (大阪公立大学大学院・獣医学研究科)

「インドネシアのジャワ島における家畜の消化管寄生虫の調査およびその分子同定」

◇Prof.Din Syafruddin (Hasanuddin University)

「*Plasmodium sp.* infection on endemic non-human primates in the Buton Utara Wildlife Sanctuary ,Sulawesi Indonesia, and the risk for zoonotic malaria」

◇所 正治 博士 (金沢大学医薬保健研究域医学系・国際感染症制御学)

「腸管寄生原虫：ヒトの腸内微生物叢としての役割」

(4) 市民公開講座

「思い出ばなし～北陸三県の寄生虫病」

講演者：◇岡澤孝雄 博士 (元 金沢大学) 「日本にあったマラリアと蚊の生態」

◇赤尾信明 博士 (元 東京医科歯科大学) 「思い出話 ～北陸三県の寄生虫病」

◇高田伸弘 博士 (元 福井大学) 「ダニと媒介感染症、北陸そして石川県では？」

(5) 大会長講演

講演者：吉田栄人 博士 (金沢大学医薬保健研究域薬学系 教授)

「ハマダラ蚊唾液タンパク AAPP の発見→遺伝子操作蚊→マラリアワクチン開発へ」

## IV. 年報作成

2022年版(年報 No.47)として、令和3年度(第48回)大山健康財団賞・大山激励賞・(第4回)竹内勤記念国際賞の各受賞者、令和3年度「第48回学術研究助成金」受贈者、令和3年度学術集会支援助成金受贈対象学術集会実施報告、その他の国際協力・浅見敬三記念 Grant(第44次派遣団報告)、令和3年度贈呈式アルバム及び令和2年度(第47回)学術研究助成金受贈者の研究業績報告を掲載し作成した。(令和4年12月発行)

## V. 寄附金

国際医学研究会(慶應義塾大学医学部学生組織)の第45次派遣団に寄附金30万円を供与した。同研究会より以下の報告があった。

3年ぶりの海外活動となった本年度は、ブラジル、イギリス、フィリピンにて活動を遂行した。COVID-19パンデミックにより過去派遣団の活動と内容は大きく異なったが、各国・地域の医療を実体験すると同時に、今後の予防医療の在り方について提言することを目指し、各地で予防医療の実際を調査した。以下、本年度の活動目標とその具体的な活動内容を記す。

### 1. 「医の原点」の実体験

医療システムや環境の大きく異なる各国・地域の医療を体験することで、医療システムや価値観を理解し、医療の本質を追求することを目標として活動を行った。

- ・ブラジル、イギリス、フィリピンの現地大学や医療施設を訪問し、実習を行った。

### 2. 医学・医療を通じた国際交流

本年度も現地医療従事者と交流を深め、自らのコミュニケーション能力を養うと同時に、現地大学をはじめとする各団体との医療交流の更なる発展に努めた。

- ・「第3回国際医学生会議をオンライン会議形式で開催し、参加した7カ国の医学生とディスカッションを行った。

ブラジルにて

- ・サンパウロ大学(USP)で「第34回日伯医学生会議」を開催し、ポルトガル語で医学的な話題について発表、討論を行った。
- ・USPにて団長が日本における最新の医学的知見を講演し、現地医療従事者と討論を行った。
- ・世界を舞台に活躍されているサンパウロ三田会の先輩方を訪問した。
- ・リオグランデドスル連邦大学病院にて現地医療従事者による回診に参加した。
- ・リオグランデドスル・カトリック大学病院にて現地学生と臨床実習を行った。

フィリピンにて

- ・WHO西太平洋地域事務局にて職員の方々と医学的テーマに基づいて議論を行った。
- ・日本国大使館やJICAの訪問を通して現地職員の方々と交流し、国際保健における支援の在り方を学んだ。

### 3. 変わりゆく社会に即した医療の考察

2022年10月現在、COVID-19の感染者数は6億人を超え、既に655万人が亡くなっている。COVID-19が未だに猛威を振るっている今、繰り返される世界的な感染症に対応するべく、予防医療の重要性が以前にも増して高まっている。また生活習慣病については、食生活の変化や高齢化に伴い患者が世界中で増加しており、生活習慣病を予防することは日本だけではなく、世界中の喫緊の課題となっている。

そういった経緯から、第45次派遣団は「予防医療」の実際を知り、その在り方を追求することが、これからの社会が必要とする医療を見据えた上で最適であると考えた。そこで、国を超えた枠組みで西太平洋地域の健康課題の解決に取り組んでいるWHO西太平洋地域事務局を訪問し、管轄地域のCOVID-19や生活習慣病の現状を調査した。

また、国民保健サービス(NIS)によりプライマリケアが発達しているイギリスを訪問し、イギリスの予防医療の実態を学ぶことで、日本の医療を多角的な観点から見つめ直した。

- ・イギリスにおいて国民保健サービス傘下の病院を訪問し実習を行うことで、一元管理された

イギリスの診療体系を理解した。

- ・フィリピンのWHO西太平洋地域事務局(WPRO)にて、COVID-19や生活習慣病に関する実情や課題について職員の方々とブリーフィングを行った。
- ・WPROでは職員の方々とワークショップを行い、予防医療を捉える上で大切な考え方を学んだ。

## VI. 贈呈式

令和4年度の学術研究助成金並びに大山健康財団賞・大山激励賞・竹内勤記念国際賞の贈呈式は、新型コロナウイルスの感染防止策（検温・手指消毒・マスク着用・ソーシャルディスタンス確保・演台へのアクリル板設置）を徹底し、出席者を限定（助成金受贈者・受賞者・理事・監事・評議員・選考委員）したうえで、下記の通り行った。なお、記念祝賀会については4年ぶりに感染防止策を徹底したうえで開催した。

- ・開催日時：令和5年3月14日(火) 午前11時30分～午後2時20分
- ・開催場所：霞山会館（霞が関コモンゲート西館37階）

◇贈呈式での挨拶等（敬称略）・・・（司会） 岡田 護 常務理事

- ・開会の挨拶及び選考経過報告 神谷 茂 理事長
- ・第49回学術研究助成金受贈者代表挨拶 羽田 健
- ・第49回大山健康財団賞受賞者挨拶 仲佐 保
- ・令和4年度大山激励賞受賞者挨拶 神白 麻衣子
- ・第5回竹内勤記念国際賞受賞者挨拶 吉岡 浩太

### ・『記念講演』

— 国際保健と感染症 — 第49回大山健康財団賞受賞者 仲佐 保

- ・閉会の挨拶 遠藤 弘良 専務理事

## VII. 総務事項

### 『理事会』（令和4年度）

◇第32回理事会

（令和4年5月24日）理事総数6名 出席者：理事6名 監事2名

1. 「令和3年度事業報告書（案）」の承認
2. 「令和3年度決算報告書（案）」の承認・「監事の監査報告」
3. 「令和4年度学術集会支援助成金の贈呈対象学術集会」の決定
4. 「顕彰者選考委員」の補充（杉下智彦選考委員辞任に伴う狩野繁之選考委員の選任）
5. 「第22回評議員会（定時評議員会）の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認
6. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、岡田護常務理事）の職務執行状況報告

◇第33回理事会（書面表決）

（令和4年9月22日）理事総数6名 監事2名

1. 「学術研究助成金選考規程（改正案）」の承認

◇第34回理事会

（令和5年2月16日）理事総数6名 出席者：理事6名 監事2名

1. 「第49回学術研究助成金受贈者」の決定
2. 「第49回大山健康財団賞、令和4年度大山激励賞及び第5回竹内勤記念国際賞」受賞者の決定
3. 「令和5年度事業計画書（案）」の承認
4. 「令和5年度正味財産増減予算書（案）」の承認

5. 「令和 5 年度・令和 6 年度の学術研究助成金選考委員、顕彰者選考委員及び学術集会支援審査委員」の選任
6. 「第 23 回評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認
7. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、岡田護常務理事）の職務執行状況報告『評議員会』（令和 4 年度）

◇第 22 回評議員会（定時評議員会）

（令和 4 年 6 月 9 日） 評議員総数 9 名 出席者：評議員 8 名 理事 6 名 監事 2 名

1. 「令和 3 年度事業報告書（案）」の承認
2. 「令和 3 年度決算報告書（案）」の承認・「監事の監査報告」
3. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、岡田護常務理事）の職務執行状況報告

◇第 23 回評議員会

（令和 5 年 3 月 14 日） 評議員総数 9 名 出席者：評議員：7 名、理事：6 名、監事：2 名

1. 「令和 5 年度事業計画書（案）」の承認
2. 「令和 5 年度正味財産増減予算書（案）」の承認
3. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、岡田護常務理事）の職務執行状況報告

## VIII. 内閣府関係

◇『定期提出書類等』（電子申請）

（1）事業報告等の提出

- ・令和 3 年度の実業報告書及び決算報告書の提出（電子申請による関連報告を含む）

提出：令和 4 年 6 月 29 日、修正：令和 4 年 8 月 25 日、8 月 30 日

完了：令和 4 年 10 月 25 日

（2）事業計画書等の提出

- ・令和 5 年度の実業計画書及び正味財産増減予算書の提出

提出：令和 5 年 3 月 30 日 完了：令和 5 年 3 月 30 日

以上

**[附属明細書]**

令和4年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和5年5月

公益財団法人 大山健康財団